

## <算数> 改善のポイント

### (1) 現状・学習効果測定の実績

学習効果測定の算数科の校内平均正答率は、第4学年、第5学年については目標値と同程度、第6学年については下回った。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点で見ると、第6学年が「知識・技能」において目標値を下回ったものの、他の学年は目標値と同程度であり、おおむね大きな課題は見られなかった。

より詳しく、内容別に各学年を見てみると、第4学年では、「たし算・ひき算」「円と球・三角形」においてはやや下回ったものの、他は目標値と同程度かそれ以上とした。第5学年では「割合」について目標値を大きく上回った一方、「図形」においては目標値を下回った。第6学年においては「数と計算」が目標値を下回り、基礎計算力に課題が見られる。

以上のことから、本校では「数と計算」「図形」の2つの領域を重点的に指導することが必要である。

まず、「数と計算」においては、簡単な演習問題に繰り返し取り組ませることで、基本的な四則計算の筆算を身に付けられるよう指導を行っていく。また、計算技能の習得ができていない児童については、演算決定の場面をつまづかないよう、演算決定をする機会を意図的に設け、図などを用いて問題場面を把握できるようにすることが必要である。

「図形」においては、様々な図形のもつ性質は理解できているものの、それを図形から読み取ることや活用して課題に取り組むことを苦手としている。そのため、作図を伴う課題に取り組ませ、習得した知識・技能をどのように活用し表現していくかを考えさせていく。

### (2) 課題

1	「数と計算」：演算決定や筆算を正しく行うことに課題がある。
2	「図形」：図形から性質を読み取ることやそれを活用していくことに課題がある。

### (3) 授業に取り入れたい改善策

1	単元名を授業のはじめに板書しないようにしたり、除法の単元の中で1時間だけ乗法の学習を行ったりするなどして、児童が演算決定をする機会を意図的に設ける。
2	作図を伴う課題に取り組むことで、どの場面で習得した知識技能を活用するか考えさせる。

R	5	観 点		
学 年		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10までの数についての数の構成の理解ができている児童が多い。</li> <li>・10までの数の加法・減法の計算も素早くできるようになった。手を使って計算して時間のかかる児童がいる。</li> <li>・長さの直接的な比較や、間接的な比較ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算やひき算の仕方について理解し、計算をすることはできるが、問題をつくる活動となると、想像できなかつたり語彙力がなかつたりする児童がいる。</li> <li>・分かりやすく説明できる児童も数名いる。友達の説明を聞いて、理解することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に考えて課題に取り組むことができる。</li> <li>・自分の考えを意欲的に発表できる児童が多い。</li> </ul>
	改 善 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の合成や分解について、宿題や学習中の課題として、継続的に取り組ませることで定着させる。</li> <li>・定期的に、復習の時間をとり、短時間でも復習を繰り返す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物・半具体物に触れ、量感を感じられるようにし、具体的なイメージをもって学習を進められるようにする。</li> <li>・話し合いの時間をとることで、友達の考えに触れたり、自分の考えと比較したりする時間を確保し、自分の考えを表現する学習を積み重ねる。</li> <li>・「タブレットドリル」等でできていない箇所を把握し、その部分を繰り返し、取り組ませる。</li> <li>・個に応じて、ブロックや図などを用いて、計算できるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が意欲的に学びたいようになるように、身近な物事と関連付けた導入を工夫する。</li> <li>・集中して取り組めるように時間を区切って、いくつかの活動を取り入れる。</li> </ul>
2	現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水のかさ（dL、L、mL）や長さ（cm、mm）の量感を捉えることが苦手な児童が多い。</li> <li>・かさや長さの加減計算を間違える児童が多い。</li> <li>・時刻は読み取れるが、時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題での問題理解が出来ず、立式することが難しい児童がいる。</li> <li>・自分の考えをノートに書くことが難しい児童がいる。</li> <li>・定規を使い、直線を引くことに個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の学習に意欲的に取り組む児童が多い。自分の考えを意欲的に発表する児童が多い。苦手意識をもつ児童もいるが、諦めずに粘り強く取り組んでいる。</li> </ul>

		<p>間を考えることが苦手な児童が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆算等の計算技能は身につけている児童が多いが、一部に一桁の足し算・引き算が難しい児童もいる。</li> </ul>		
	改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題や朝学習で復習し、学習内容を定着させる。</li> <li>時計や長さは、具体物を用いて操作したり、生活の中で触れる機会を増やしたりして、考えさせるようにする。</li> <li>基礎的な技能が身に付いていない児童には、少数または個別での指導を行い、家庭とも連携して継続した指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面を図示したり、問題を解くためのキーワードを覚えさせたりすることで、問題の内容を理解できるようにする。</li> <li>図や言葉、式を用いて自らの考えを発表する場を設ける。タブレットや実物投影機を使い、考えを伝える活動を増やす。</li> <li>定規を用いて直線を引き、長さを測る活動を取り入れ、線を引くことに慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に応じた習熟度別の授業展開を通して、導入や展開を工夫する。具体物を用いたり、操作したりして、課題を把握させたりすることにより、見通しをもたせて学習させる。</li> <li>自他共に考え方を認め合う場を設定する。</li> </ul>
3	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>「時刻と時間」では、時刻や時間を計算で求めることが苦手である。時刻や時間特有の繰り上がりの仕方を理解するのにつまづきを抱えている。</li> <li>時間の単位や長さの単位の変換が苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「たし算とひき算」では、基礎的な計算力が身に付いているものの、思考力が問われる問題では、自分の考えを表現する力に乏しい。</li> <li>文章問題での問題理解に課題があり、演算決定が苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数を楽しみ、前向きに学習に取り組むことができる。児童間の意見交換も活発に行える。</li> <li>難しい課題に1時間かけて取り組む、といった集中力に欠ける。</li> </ul>
	改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の学校生活で、時刻と時間を児童が考えて行動できるような指示を工夫する。</li> <li>様々な単位の変換を授業で振り返り、定着させる。</li> <li>具体物を用いて、量感を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面に応じて図や数直線に表すことで、文章中で何が述べられているのか、何を求めるのかを整理できるようにする。</li> <li>四則計算の意味について改めて確認し、理解を深める場を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自分の考えを引き出せるように、課題提示や見通しのもたせ方を工夫する。</li> <li>応用発展的な問題を取り扱う際には、「考えれば分かる」という経験が得られるような授業展開を行う。</li> </ul>

4	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習効果測定では、目標値と同程度である。</li> <li>「円と球」では、別の事象の長さを活用して図形の調べるといった、相対的に長さを捉える力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習効果測定では、目標値を3ポイント上回っている。</li> <li>文章題を読み取り、立式することや、単位の異なる項を用いて計算することを苦手としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習効果測定では、目標値と同程度である。</li> <li>自分の考えを意欲的に言葉や式、図にすることができる。</li> </ul>
	改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な演習問題に繰り返し取り組ませ、四則計算の筆算を確実に身に付けさせる。</li> <li>繰り返し上がり繰り返し下がりや位取りを丁寧に処理するよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文を最後まで読み、問われていることは何か把握してから、課題に取り組む習慣を付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自分の考えを引き出せるように、課題提示や発問、見通しのもたせ方を工夫する。</li> <li>授業の導入に既習事項をどのように生かすかを考えさせ、全体で共有させる。</li> </ul>
5	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習効果測定の結果は、目標値と同程度である。</li> <li>「角の大きさ」「いろいろな形」では、コンパスや分度器を使った基本的な作図を行えない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習効果測定では、目標値を6ポイント上回っている。</li> <li>文章題を読み取り、立式することや考え方を文章に表現する力が相対的に弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習効果測定の結果は、目標値を2ポイント下回っている。</li> <li>手を上げる児童が固定されており、分かっている質問であっても発表をためらう児童が見られる。</li> </ul>
	改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>目盛りを間違えている、辺や頂点がずれている、といった基本的な誤りが目立つため、今一度作図の手順を押さえて指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文を最後まで読み、問われていることは何か把握してから、課題に取り組む習慣をつけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の導入に、既習事項を振り返る時間を設け、自信をもって取り組めるようにする。</li> <li>児童が自分の考えを引き出せるように、課題提示や発問の仕方を工夫する。</li> </ul>
6	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習効果測定の結果は、目標値を10ポイント下回っている。</li> <li>数と計算の領域に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習効果測定の結果は、目標値を3ポイント下回っている。</li> <li>文章を読み取り正しい解を選択することやそれを説明することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習効果測定の結果は、目標値を4ポイント下回っている。</li> <li>児童間における、学力差や学習意欲の差が大きい。</li> </ul>
	改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な演習問題に繰り返し取り組ませ、四則計算を確実に身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考え方や解き方をノートに書かせることや授業の終わりには振り返りをさせることで、考えを文章に表現する力を付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別学習を充実させ、場合によっては、4・5年生の内容を振り返りながら指導をしていく。</li> </ul>